

## 高等学校グランドデザイン会議第1回第2専門委員会概要

日時：平成18年6月28日（水）

13:30～15:00

場所：青森県総合社会教育センター

### <出席者>

高山委員長 佐々木副委員長 伊東委員 遠藤委員 工藤委員 佐藤（昭）委員  
佐藤（勝）委員 下山委員 新田委員 杉田委員 斗沢委員 野呂委員 馬場委員  
福原委員 藤田委員 本谷委員

### 開会

#### 司会

委嘱状は、資料と共にあらかじめ皆様のお手元にお配りしておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、皆様お揃いになりましたので、ただ今から「高等学校グランドデザイン会議 第1回 第2専門委員会」を開会させていただきます。

### 教育次長挨拶

#### 司会

まず初めに、青森県教育委員会教育次長 田辺から、皆様へ御挨拶申し上げます。

#### 田辺教育次長

本日は、お忙しい中、高等学校グランドデザイン会議第2専門委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

この度、皆様には当会議の専門委員をお願いしたところ、快く御承諾いただいたことに対し、厚く御礼を申し上げます。

なお、委嘱状につきましては、大変恐縮ですが、あらかじめ皆様の御席にお配りさせていただいたことを御了承願ひたいと存じます。

さて、現在、県教育委員会では、平成12年度から20年度までの県立高等学校教育改革第1次実施計画及び第2次実施計画に基づき、新しいタイプの高等学校の整備や中高一貫教育の導入等を進めているところであります。

しかしながら、この間、中学校卒業生数は減少の一途をたどるとともに、産業構造や就業構造の変化、生徒の進路意識の多様化など、高等学校教育をとりまく環境は大きく変化してきております。

特に、今後の本県の中学校卒業予定者数は、平成20年3月から平成30年3月までの10年間で約2,700人の減少が見込まれております。

この度の「高等学校グランドデザイン会議」はこれらの状況を踏まえ、本県の高等学校教育の水準の維持・向上を図り、活力ある教育活動を展開できるよう、平成21年度からの県立高等学校の在り方について御検討をいただくための会議でありまして、去る、5月31日には高等学校グランドデザイン会議を総括する第1回の検討会議を開催したところであります。

本日の第2専門委員会においては、社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方について、県立高等学校と中学校や大学等との連携について、調査・検討していただくこととしております。昨日開催された第1専門委員会の調査・検討事項と深く関連していることから、事務局として、お互いの情報の共有に努め、円滑に会議が進行するようにしてまいりたいと考えております。

皆様には、2年という長きにわたって委員をお願いし、何かと御面倒をおかけするかと存じますが、本県高校生が夢を育むことができるような今後の県立高等学校の在り方等について、それぞれのお立場から御審議、御提言くださるよう、よろしくお願い申し上げます。

## **委員紹介**

【事務局が、出席している委員の名前を読み上げた。】

## **設置要綱説明**

【事務局が、「高等学校グランドデザイン会議設置要綱」を読み上げた。】

## **諮問事項説明**

司会

それでは、次第の「3 諮問事項説明」に移りますが、これより進行は委員長にお願いしたいと思います。

高山委員長、よろしくお願いいたします。

高山委員長

第2専門委員会の委員長を拝命しております、高山と申します。隣は副委員長の佐々木委員でございます。

当会議は、大変重要な会議だと考えています。様々な面について皆さんで話合う中で、教育の専門家と民間人が積極的に意見交換しながら、より良いものを作っていく

たいと考えておりますので、御協力の程よろしく申し上げます。

それでは、次第「3 諮問事項説明」となっておりますので、事務局から資料等の説明も含めて、よろしく申し上げます。

【事務局が、諮問書の写しを読み上げ説明。】

### **審議計画**

高山委員長

御質問があるかもしれませんが、後程質疑応答の時間を多めにっておりますので、御質問はその時に申し上げます。それでは、次の「4 審議計画」について、事務局から説明申し上げます。

【事務局が、配付資料に基づき説明。】

### **資料説明**

高山委員長

続きまして、次の「5 資料説明」について、事務局から説明してください。

【事務局が、配付資料に基づき説明。】

### **質疑応答・意見交換**

高山委員長

続きまして、次第の「6 質疑応答・意見交換」に移ります。事務局からの説明もありましたが、まず質問をお伺いしたいと思います。資料につきまして、より詳しく知りたい箇所などがございましたら、皆様の方から挙手の上、御質問をお願いします。

A委員

諮問書の理由書の中の「2 社会の変化と生徒の多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方」の文中に、「学科等の専門性が社会の要請から乖離している」とあるが、これはどういうことですか。

事務局

事例としては、工業高校の卒業生が工業関連分野に就職・進学しているか、商業高校の卒業生が商業関連分野に就職・進学しているかと言うと、必ずしもそうではあり

ません。学校で教えているものと進路とがなかなかマッチしていません。

更に突き詰めて言いますと、専門高校では学科が細分化している状況ですが、その学科に対して出口の部分が上手くマッチしているのかを検証していく必要があると考えます。

残念ですが、社会の移り変わりの方が、我々の作業よりも数段早く進んでいるという感覚を持っています。これからの十年を見た時に、学科の在り方はどのような形がよいのか検討する必要がある、ということで、このような理由になっております。

#### A 委員

諮問を受けるとなると、何が問題かがはっきり分かると議論がより進みますので、少し詳しくお聞きしました。

#### 高山委員長

今回は初回というので、これからこの委員会を進める中で、よく分からないまま進んでしまったということにならないよう、御質問等があればいただければと思います。

諮問事項の2と3に関して検証を進めることが我々に与えられた使命です。今日は、中学校の先生や専門の先生や民間の実業分野に近い私のような人間もおりますので、入口と中間と出口というそれぞれの分野から、多方面に渡って2と3に関して検証していきたいと思えます。

御質問がないようですので、引き続き意見交換へ移りたいと思えます。今日は初回ですし、それぞれ地区、専門の分野、立場が違ふと思えますので、今日の諮問書の内容や、これからどう進めて行けばよいのか等について、感想、コメントを交換しながら、委員全体の共通認識として問題意識を新たにしたいと思えます。それぞれのコメントをいただきたいので、それぞれのお立場から、地区別の状況や学科の在り方等を含めて、意欲、抱負のようなことを言っていただければと思えます。

#### B 委員

去年は進路を担当したのですが、社会の状況という点では、工業高校の生徒には、就職ということに関してある一定の役割があります。県外では、去年から非常に求人が活発で好ましい状況になっていますが、その一方で、工業高校全体では進学率も向上しており、それに対する対応が強く求められています。

#### C 委員

これまでは、農業高校の在り方はどうあるべきかという姿を頭に描いてきましたが、この会議のメンバーとしては農業以外の分野も考えていきたいと思えます。

データ上では、進学等の数字は低いと思えます。しかし、農業高校本来の専門性

を活かした教育の充実も当然ですが、農業の持つ教育力で生徒が変わっていくという場面も見られるように、専門性と教育力という2面性があるということを頭に描いております。

#### D委員

この委員会の中では異色な形かと思われませんが、私も2年前までは、行政マンで義務教育畑を長くやっておりました。民間に出てみますと、高校から進学する生徒はよいのでしょうか、率直な話、ある会社からは、高校を終わってすぐ就職するとなると、1番手はよいが2番手3番手となると、言葉使いや計算から使い物にならないことが多く、採用したくても面接段階で落とさざるを得ないという話を聞きます。そういうことへの対応を、学科・コース等でどうやってやっていくのかが非常に大きな課題かと思えます。

また、少子化の問題は、義務教育も高校も避けて通れないでしょうし、県立高校だけでなく、私立高校も同じだと思います。中学校卒業生全体を、どういう形で県立高校へシフトしていくか、あるいは特色ある私立高校へシフトしていくのか、を見極めることが大事だろうと考えます。

弘前大学の先生とも色々話すのですが、高等学校でしっかり学習しておかないとどうにもならない、という率直な意見もありますので、その辺を今後折に触れて話していきたいと思えます。

#### E委員

今回の諮問の中身で言いますと、学科・コースの在り方に関わると思いますが、正直に言って、理数科はあまり上手くいっていません。理由は色々あるでしょうが、理数、表現、人文などと言っても、中学校を卒業する時点では子どもたちが選び切れていない、という点が1つあると思えます。

また、各学校に1学年1学級しかない学科では、3年間学級替えがありません。今の子どもたちは、固定化された人間関係を非常に嫌うので、3年間同じ学級で過ごすということに息苦しさを感じているのではないのでしょうか。そういう学科が、志望の段階で1倍を割っているという状況は、そんなところに理由があるのではと思います。

各地区毎に普通高校の中に、美術や表現といった特色ある学科を1学級だけ設置するよりは、親にとっても子どもにとっても、普通高校にとりあえず入学し勉強してゆく中で、大学や専門学校へ行く段階で専門へ分かれていくという考え方がいいのではと思います。ただし、そうすると特色あるものがなくなるのではとも考えられますが、衛生看護科が黒石高校に集約されたように、また、専門高校が学科毎に作られているのと同じように、表現や英語、芸術系では音楽や書道といった特色ある学科を集約した専門高校のような構想も考えられるのではないのでしょうか。

また、総合学科と全日制単位制普通科に関する資料がほとんど無かったので、状況

や効果はどうかという資料がもう少しあれば、より議論ができると思います。

#### A 委員

やはり、大きな問題は少子化だと思います。新聞にも出てましたが、人口がどんどん減ってゆくという1つには、高校生が就職して県外へ出てゆき、地元に着定できないという状況があります。そのような状況では、先程のように2番手3番手は能力がないと言われてしまいますと、ますますマイナスになってしまうのではないのでしょうか。いかにして、今いる生徒がみんな楽しく、どこかで自分の能力を発揮できるような、3年間のシステムをどうするかが課題だと思います。

高専は全国に55校しかありませんので、知名度が非常に少ないです。ですので、本校は、キャンペーンとして何かあったらすぐに宣伝します。その地域に、生徒がどんな活動をしているかを発信し、知ってもらおうようにすることが必要ではないでしょうか。

人が少なくなっているから問題なのでなく、逆に今いる学生がここに入ってよかった、卒業してよかったと思えるように、それぞれ努力してゆくことが必要なのではと思います。

#### F 委員

保護者・中学生とも、専門高校と言うとイコール就職というイメージを持っているようです。しかし、最近は状況が違ってきておりまして、進学もできる状況になっています。特に大学は、国立もそうですし、有名私立大学からも指定校推薦が結構きています。また、様々な難しい資格を取っている状況が、保護者や中学生に理解されていない、というような宣伝不足を感じています。高教研の商業部会としても、青森県独自のリーフレットを作成して宣伝しようという動きが現在あります。

特色ある学科について、中学校の先生に理解してもらおう努力が少し足りなかったのではと感じています。本校でも、商業科、会計科、情報処理科とありますが、何がどう違うのかという特色が分かりにくいようですので、もう少し分からせていく努力をしていきたいと思います。

また、ある程度中学校の早い段階での進路選択を、とは言っても、1年生に入った段階では、そこまでの進路意識はない訳です。やはり基礎科目を学習しながら、1年生に入った段階からオリエンテーションや進路ガイダンスを繰り返すことで、学科の特色が出てくるのかなと考えています。

#### G 委員

しっかりした進路指導をしていきたいと思っています。本人が希望した学校を見極めさせてから行かせたいと考えています。しかし、本人だけでなく保護者の意見もあるので、大変難しい状況ではあります。

高校にお願いしたいことは、入ってよかった、と思えるような魅力ある高校、魅力ある学科にしていきたいと思います。

高校の減少については、中学生の希望としては通学時間が短い高校へ進学する傾向があるようです。高校が減少することによって、通学距離が大変長くなると、生徒指導上も大変になるのかなという気もしています。

学科・コースの増加に関しましては、設置した目的が中学校に上手く伝わらないこともあります。私たちも関係者から聞いてはいるのですが、保護者や子どもたちに上手く伝わらないこともあるのでよろしくお願いします。

総合学科につきましては、普通高校の中で拡充するのではなく、工業や商業との連携で総合学科を運営していくことはできないでしょうか。

定時制高校につきましては、何年かけても単位を取得できるような制度ができないでしょうか。また、普通科と定時制との交流もあってもよいのではないのでしょうか。

## H委員

高校を選択するにあたっては、本校も中学校での説明会でも言っていますが、入れる学校でなく、入りたい学校を選んで欲しいと思います。現実には、成績の問題等もありますので、希望しないで来る場合もありますし、中学校の段階で自分の進路を選ぶのは難しいという面もあるでしょうが。

その分、本校での3年間では、じっくり学んでどのような方向へも進んでいけるように指導していますし、効果を十分に発揮しているかは分かりませんが、進学と就職が半分ずつくらいという状況です。

進学する場合は進学するための指導が必要ですが、商業教育のスペシャリストを目指すということで、いずれ大学、専門学校等で学ぶ時の基礎を重視しています。普通高校から進学する生徒よりも、自信を持ってやっていけるという指導を主に進めています。どのような進路にも行ける、というのは実際には無理で、経済系の大学が中心になります。力不足な場合もあるとは思いますが、農業大学に進学したい生徒等には個別に対応する場合もあります。

ビジネス教育は、普通高校の生徒でもいずれは学ばなければならないものです。基礎学力としては、たとえ専門高校がなくなった場合でも、むしろ必要な科目ではないでしょうか。

## I委員

農業高校は、就職・進学等、多様化した生徒に対応できるよう、色々な学科・コースが設定されています。農業技術を教えるということもありますが、農業教育を通しての人間作りも大きな部分です。

また、あまりに細分化してほとんど土に触れない生徒もでてきますが、そういうのは困る部分ですので、学科・コースを考えていかなければならない時期なのかなと思

います。

#### Ｊ委員

総合学科になった影響かは分かりませんが、進学率が毎年かなり上がっています。初めての総合学科の卒業生は、専門学校まで入ると進学率が80%を超えました。

そのような状況も踏まえ、進学を意識したカリキュラムを考えてはいますが、毎年選択科目は流動的な状態であるのが現状です。今年度も新たな選択科目を考えるのですが、総合学科は学校設定科目が設定できますので、資格取得や進学に対応できるのがよい点ですが、学校の性格上、生徒自身が3年間を見通したカリキュラムを1年生段階で作らなければいけないので、目的意識を持った生徒を中学校にはお願いしています。選択科目がある程度決まってしまうと、理論的には色々な系列から科目が選択できるのですが、科目をつまみ食いするだけでは出口が保証されないという形になってしまうのが難しいと感じています。

#### Ｋ委員

大学進学率が非常に高くなっているということは、素直にはめでたいこととは受け取れません。仕事がないものだから、とりあえず上の学校へという人が大分いるのではないのでしょうか。大学へ行けばなんとかなるという時代ではないはずですが、青森県に若い人が定着できるためには、若い時から住んで働いてもらうのが一番よいでしょう。

そのためにも、社会の変化やニーズにあった学科等が必要です。青森県には青森県に合ったような学科があって当然よいと思いますので、考えたほうがよいのではないのでしょうか。今日は農業高校の先生が多いようですが、青森県には水産、林業、原子力もある訳ですし、青森県にあった科目を学び、そういうところで働ける人間作りを目指した高校教育が欲しいと思います。

#### Ｌ委員

本校では、大学進学希望者が多いので大学へ目が向きがちですが、もう少し地域の中学校と情報交換、交流をしなければいけないと思います。

私は、昨年・今年と1学年を担当し、新入生を2年連続で見えています。新聞紙上でありましたが、高校入試（県立高校前期試験、5教科総合）の平均点が例年と比べて今年はずいぶん下がったようです。それに対しては、「難易度の上下の差の範囲内で、直接的に学力の低下を示すものではない。」とのことでしたが、2年連続で新入生を担当してみて、中学校から本校に入ってくる生徒の気質や、勉強に向かう姿勢が変わってきたのではないかという思いもあります。

そういうことから、中学校との連携を深めなければと思っています。ここ数年は、中学校の先生方に本校に来ていただいて授業等を見てもらい、情報交換の場は設けて



いますが、現在は年に1回ですので、より多く中・高お互いの授業を見たり、情報交換をしたりして、中学校と高校の状況を知り合う必要があると思います。

大学との連携では、数年前から弘前大学と連携させていただいています。週に1回、本校2年生の希望者が放課後に弘前大学の講義を聴講し、試験等に合格すれば単位も認定されます。また、弘前大学医学部や東北大学の先生を招いたりして、大学や学部の説明等をしていただいています。

#### M委員

スポーツ科学科は、今年の春で3回目の卒業生になりました。課題としては、出口をどうやって保証するかがあります。

3Tと言いまして、「teacher」体育の採用試験の状況を見ると厳しい状況です。「trainer」Jリーグ等の専属トレーナーなど様々あるかもしれませんが。「therapist」理学療法、作業療法、介護士等がありますが、理学療法と作業療法については、スポーツ科では物理がないので国公立大学を受験するのは無理があります。しかし、推薦等で進学する生徒もいるので、セラピスト系分野での進路も設定しています。

生徒達は、スポーツ科学科で専門科目を喜んで勉強しています。在学中に取得できる公的な資格はありませんが、検定を受けるための取り組みをしていきたいと思えます。

#### N委員

地区の中学・高校の数学の教師で、ここ3年つなぎ教材を作っており、ずいぶんよいものができています。昨年度は、高校側の教員が中学校の研究発表会に参加したりする中で、一緒になって作っています。高校入試が変わって、前期合格者が入学するまでずいぶん間がありますので、このつなぎ教材で、どこの学校に合格しても同じ指導ができるようになりましたし、中学校の苦労や、高校の言い分等、色々な話ができただことで、中学校と高校の交流が深まってよかったと思います。

今年の3月に、本校総合学科は初めての卒業生を出しましたが、1期生は非常に頑張ったと思います。元々は女子校で、家庭科学やビジネス系統からできてきた総合学科ですので、進学体制は不十分だったかもしれませんが、国公立大学に9名合格しました。大学や短大を受験する生徒も前年度比で25人も増えましたし、介護福祉士の国家試験は11名全員が合格しました。総合学科は非常によいシステムだと思います。就職したらよいのか、進学したらよいのか、将来がよく分からない子はうちに来てもらえれば教育します。1年生で「産業社会と人間」という科目があり、自分探しをさせます。2年生では「インターンシップ」で、実際に会社にお世話になり、2～3年生で「総合的な学習の時間」を通してキャリア教育ができる、というように自分の将来を考えさせることができます。1年次には進学校と同じ科目を揃えて、2年次から専門科目が選択できるようにしていますが、問題は、進学希望者が増えていますので、

学力向上をさせなくてはいけないことです。

総合学科として、本校としては進学も就職もできる学校にしたいと考えています。生徒も、自分の可能性を開花できるという認識を持って、楽しく学校生活を送って欲しいと考えています。

#### 佐々木副委員長

問題を縦軸と横軸で捉えられるのではないかと思います。

縦軸で見ますと、高校を真ん中にして、中学校、高校、大学あるいは社会というその中でどういう連携の仕方をするかで皆さん苦労している御様子ですので、まず、縦の問題をこれからどう考えていくかがとても大切だと改めて教わりました。

高校毎に様々な取り組みが行われている、高校の在り方という横軸については、全日制と定時制の行き来や、普通高校から総合学科等への横のルートがあってよいのではと思います。

市部と郡部の学校の関係をどう考えるかという問題もあります。統計を見ても、郡部はそもそもの人口が減っていますし、市部はそれほどの減りでもありません。そのバランスは、農業等も含めた県の政策とも密接に絡むと思いますが、少子化、過疎化、どういう人づくりをするのか、今後の青森県の活性化に関わる非常に深い大変なテーマだと思っています。

#### 高山委員長

あまり皆さんの話には出ませんが、教育費の問題もあると思います。子どもの将来が花開いて欲しいという親の思いで、高校、大学と教育投資しても、大学、就職等で県外や海外等へ行ってしまふことがままあります。県内の金融資産が県外へ投資され、投資効果がそのまま県外・海外へ流出してしまふ部分があります。若者には、青雲の志を抱いて県外で頑張っている人、青森県のために役立ちたいとUターン、Iターン希望の人、故郷で頑張っている人、県出身者で、県外に出た人も含めて、青森県の力になりたいと思う方はいっぱいいると思います。そういう意識のレベル、いわば高校教育の出口にまで関わるような高校教育改革をつなげていけば、広く県民の支持を得やすいのではないのでしょうか。皆さんと議論、意見交換しながらよりよいものを作っていきたいと思います。

スケジュールについては、今回は8月の予定ですが、7月20日の第2回検討会議で、課題が第2専門委員会に与えられますので、それについて議論をしたいと思います。そのために、検討課題については早めに皆様にお知らせして、事前に事務局の方へ意見等を文書化したものをよせていただいて、それを元に活発に議論したいと思います。

それでは、事務局お願いします。

【事務局が、今後のスケジュール等について連絡。】

## 閉会

### 司会

以上をもちまして、高等学校グランドデザイン会議第2専門委員会を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。